

国道57号・中九州横断道路

滝室坂トンネル着工



波野側坑口で着工式

坂梨と波野をつなぐ国道57号の新ルート『滝室坂トンネル』の着工式が6月24日に波野側の坑口で開かれ、国や県、周辺自治体、工事関係者ら約110名が出席。地元国会議員や関係首長らと波野保育園の園児が工事の安全を祈願して鍬入れを行いました。

滝室坂トンネルは、国道57号に加え、熊本と大分を横軸で結ぶ中九州横断道路の一部としても活用が見込まれています。

工事は、約4・8キロのトンネルを標高差200メートルの波野側坑口と坂梨側坑口を両側から掘り進めます。平成32年度末までを第1期工事として、本坑2キロと避難坑4・8キロの掘削を完了予定。なお、開通時期は未定となっています。

滝室坂の現状

九州北部豪雨での被害

平成24年7月12日に発生した九州北部豪雨では、法面崩壊や土砂流出などにより、滝室坂の11カ所が被災。延長4・6キロが40日間にわたり通行止めとなり、市民生活や物流、観光交流などに大きな被害が出ました。

特に発災当初は、国道265号(箱石峠を経由する道)と県道11号(やまなみハイウェイ)も土砂崩れにより被災したため、波野側から宮地側へ移動する際は、大観峰付近の国道212号まで迂回する必要がある、通常15分の道のりを45分かけて移動しなければなりませんでした。

連続雨量140ミリで全面通行止め

土砂災害による事故を未然に防ぐため、復旧された現在も大雨による連続雨量が140ミリを超えた場合に全面通行止めになります。急勾配のカーブが続くことから、交通事故による通行止めも少なくありません。ことしの6月20日の大雨でも約7時間の通行止めとなり、大分方面とのアクセスに影響が出ました。



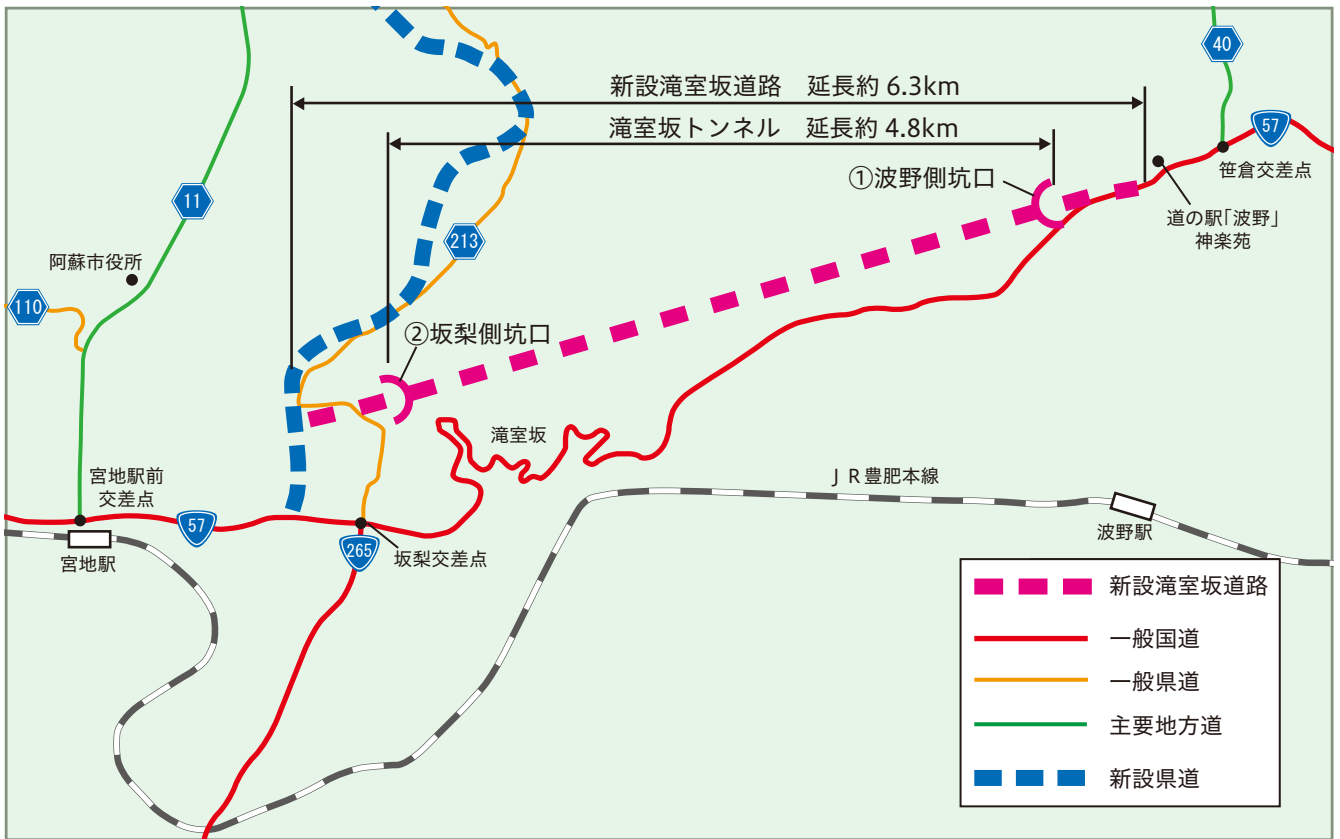
平成24年7月12日の滝室坂
この日から40日間通行止めとなった

命の道としての役割

滝室坂は、大分・熊本間のアクセスに大変重要な役割を担っています。熊本地震の際には、大分から阿蘇地域への唯一の救援ルートとして大切な役目を果たしました。しかし、災害による通行止めによって、利用できなくなる不安は、今も残されたままです。

新設される滝室坂トンネルは、今後想定される大きな自然災害時にも現57号の代替ルートとして利用が可能です。防災面や救援ルートである命の道としても大きな期待が寄せられています。

滝室坂道路(トンネル)新設イメージ



②坂梨側坑口付近



①波野側坑口付近

中九州横断道路とは

中九州横断道路は、熊本市と大分市を結ぶ延長約120km（熊本側約60km、大分側約60km）の地域高規格道路※です。完成すると熊本市と大分市の移動時間が約80分（約220分↓約140分）に短縮され、観光や流通促進など地域活性化への貢献が期待されます。

現在は大分県側で犬飼から朝地までの19.3kmが開通しており、平成30年度中に竹田まで6km延長した25.3kmの開通が予定されています。

熊本県側の区間では、今回の滝室坂トンネルが初めての事業化となり、県内区間の足掛かりとして整備加速の追い風になるよう早期の完成が期待されます。

※地域高規格道路とは、路線全体で概ね時速60km以上の速度で走行することができる自動車専用道路です。

お問い合わせ
市役所建設課
☎ 22・3187